

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・能登・平林・合川^c・セルゲイ^c・内藤^c・吉田^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- IAEA センター長会議に 5 月 27 日-30 日に出席した。我々のセンターでは年次報告とともに、コーディングエディタ HENDEL と数値読取システム SyGRD の開発報告を行なった。本会議で我々のセンターに課せられた関連の主な事項は以下の通り。
 - ・採録分担について現在担当のセンターが十分に責任を発揮しない場合は IAEA が他のセンターに採録を依頼することとなった。
 - ・今まで中性子関係文献のみを対象としていた CINDA が荷電粒子反応も対象とすることになった。我々がどの文献のどの部分に関して責任を持つかを決めて報告しなければならない。
 - ・研究計画を立案する上で加速器のリストを作成する必要がある。我々が日本の加速器のリストを作成することになった。
 - ・EXFOR の素粒子コードを整備する部会を立ち上げることになり、当センターから加藤と大塚が加わることとなった。
(加藤)
- 今年度 VBL に関して招聘するガルビッツ氏(半古典論)が 6 月 27 日に来日されることとなった。(加藤)
- Chukreev から問い合わせのあった PR/C 62(2000)014610-7 Fig.7 に含まれる図の読み取りを SyGRD で行なって送付した。これを受けて Chukreev から送付された実験値を我々の読取結果とともにプロットした。両者は概ね良い一致を示している。(大塚)
- 我々が提案しセンター長会議で議論されたコードのうち、MUB/SRGEVC, AP が承認された。一方 NSF をはじめとしたスピン関係の一連のコードは D1735, D1755 の該当データが直接観測量でないことから、提案を取り下げた。(大塚)
- jcpgrg の NRDF のデータ検索のデータを更新した。現在 D1723 まで検索対象となっている。(大塚)
- 昨年度の年次報告は査読者の協力を得て原稿が完成した。今週末か来週頭に校正にかかる予定である。全ページ数は 138 ページを見ている。(吉田)

3:議論

- CINDA に対する当センターの責任範囲に関して以下の意見が委員からでたが継続議題となった。
 - ・NSR が採録範囲としている雑誌はカバーする。
 - ・原研が採録対象している 100 余タイトルを参考にする。
 - ・電子媒体で入手可能か否かというのが一つの基準になる。
 - ・日本にいないと扱いが困難なものを対象にする。
 - ・当センターが変換対象としているものを対象にする。
- 新規コード
 - ・以下の申請コードが承認された。
MB/MSR, THTL-MIN, THTL-MAX, DELTA-INC-ENGY-CM, DELTA-ENGY-EMT-CM, MEV*B, MAG+PLST-SCT+TOF+LIQID-SCT
 - ・天文学的 S 因子関係のコードは ASTRSFACR で適切かどうか作業部会での継続議題とする。

4:次回

2002年7月22日 17:30より